

# 第3回嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会 議 事 録

平成27年5月18日

16:00~18:00

嬉野市役所嬉野庁舎会議室

## 1. 開会

## 2. 挨拶

## 3. 委員の交代について

## 4. 議事

### 1) 嬉野市情報公開条例改正に伴う、会議の公開の可否について

- ・平成27年4月1日付の条例改正により、審議会等の委員会については原則公開であり、委員の判断により非公開が望ましいならば非公開とするということとなった。本会議については従来通り、会議において前回の議事録を了承したのち公開とする。

### ○議論

- ・JRバスからはロータリーへの入り込みを前向きに検討しているという回答を得ている。
- ・祐徳バスとJRバスは通過するバス停という扱いになるであろうし、西肥バスにしても駅まで延長しないのであれば退避場はいらないだろう。現在、祐徳バスの鹿島へのバスが1時間に1~2本、JRは2~3本である。本数は直近にならないとわからないが、基本的に武雄までの特急を受けての、嬉野までの輸送手段であり、新幹線が開通すると現在の半分~1/3に減るかもしれない。
- ・前回、一般駐車場の中に大型バスが入ることの安全性を懸念していたが、この案の⑦のスペースであれば充分。通常列車到着の10分くらい前に来て待機し、ツアーであればガイドがお迎えに行くので、不案内ということもない。
- ・観光バスの駐車は旅行会社手配などの一般観光バスならば1~2台、修学旅行ならば5~6台。全列車に対応が必要なわけではない。
- ・新鳥栖駅で20数台分確保されているが、一等地がほとんど空いている状況になってもったいない。当初、博多駅が手狭であることから新鳥栖まで誘導する、という目論見であったが、現在そこまで活用されていない。
- ・駅の内部構成は決まっているのはコンコースのみと聞いている。

- ・駅舎の中に店舗やインフォメーション、待合スペースがあるのかないのが②につくる施設のイメージに影響してくると思うが、駅舎の構成はどのタイミングでわかるのか。
- ・駅舎の中の案内所等の機能については、JRでなく市が借り上げて設置することになっている。現在の予定としてはトイレとインフォメーションについては確保したいと協議中である。協議が確定すれば、インフォメーションは可能。物販については小さなものなら作れないことはないが、大きくなると駅舎外に設置する必要がある。
- ・九州新幹線の薩摩川内や水俣は駅舎の中に観光協会や物販が入っている。客が過ごすのは列車が来るまでの30分程度であり、外には出たがらない。高架下も含めた、通常駅舎と呼ばれる空間に、どのくらいの施設が取れて、物販と飲食が配置できるのか。もしそこにトイレとインフォメーションしかないなら②の場所にそのような施設が必要になる。②の施設の規模感は駅舎の構成によって変わってくるのではないか。いつ決定することになるのか。
- ・まだ駅舎自体の認可も降りておらず、認可後のことになる。それがいつかはまだ把握できていない。
- ・新水俣駅は改札を出た所に市の物販施設がある。あのスペースは広い。いずれにせよ、新幹線として必要な鉄道施設が高架下に来るので、あくまでそれを確保したうえで一部使える所を利活用するのが前提となる。
- ・駅舎は認可もされていないので調整にはまだ時間がかかる。
- ・鹿児島ルートからの逆算で言うと、平成28年の認可、それから基本設計、実施設計に入っていくこととなる。形状としては新玉名駅と似ており、新玉名駅のレイアウトは参考になるのではないかと思う。新玉名駅は高架下に、それほど大きくはないが物販施設が入っている。
- ・乗降客数や来客数内部需要からの規模の算定はしていないのか
- ・私見だが、インフォメーション、待合室は必要だと思うが、展示施設やミュージアムについては集客に苦勞し、赤字になる可能性が高いだろう。唯一面白いと思うのはお茶にからむものであるが、すでに計画されているということで、ここでは必要ない。物販のマルシェや直売所というものについては集客上魅力的だが、現段階でこのエリアに競合するものがあるのかないのが影響する。通常、直売所を作る場合にも市場調査、マーケティングをするものであるが、現在、この周辺にある程度の規模のものがないのであれば、駅に付随するということだけでなく、お茶や農産物の拠点として、ある程度の規模の直売所を作ってもいいと思う。温浴機能は何かの形で表現した方が良いと思っているが、資料に見るように、温泉施設をつくと収益上プラスになるのかどうかは不安であり、足湯、指湯で見せる程度になるかもしれない。機能論的に言えばあればいい、欲しいなと思うが、公的なものであれ、民活であれ、採算を求めるとなると厳しいのではないか。コンベンションについては市としての需要が明確にあり、現在の施設では物足りないということになれば有りうるだろう。需要次第。物販は、周辺のマーケットの状

況によって、他の所にある程度の規模があるのであれば、ここでは 1000 m<sup>2</sup>ということではなく、50 とか 100 とか、高架下に入る程度、ということになるだろう。

- 温泉は掘る計画はあるが、公衆浴場のような施設を設けるか、見せるだけのものになるかは未定。
- 温泉施設の見込みはあると思っている。泉質はわからないが、それでも大丈夫だと思う。医療センターもあり、可能性は十分にある。
- 民間が運営して、日帰り入浴だけで採算が取れるか。10万人は必要だと思うが。
- 単価にもよるが、大丈夫だと思う。温泉施設だけでなく、複合的に土日だけマルシェをする、などの広場もあれば良い。ショップなど、ちゃんとしたものが揃っていれば、新幹線を使う方以外の集客もかなりあるだろう。
- 嬉茶楽館の裏に交流センターを作る計画があり、交流センターだけでは集客が伸びないだろうから、そこにお茶や野菜などを販売する施設も含めて考えようという話はでている。市が運営することはできない。嬉茶楽館の方の物販も民間の方を考えている。吉田まんぞく館という直販所が民間で作られているが、そのような形でやられるのが望ましいと思っている。アクセスも、商店街を空洞化させないように、駅前中心でなく、市街地を含め、嬉茶楽館までシャトルバスの巡回をさせたいという話もでている。
- 最後に新幹線に乗る前に買っていきたい、ということもあるだろうから、そういうお客さんのことは考えるべきだと思うし、それで町中が疲弊するという事でもないだろう。市街地のお店の方が小さなお店を駅前に出店する、ということもありうる。
- 北陸新幹線では高架下に小さな食堂や販売所が出店されているとテレビで紹介されているのを見た。お客さんがそういう所をまわるというのものもあるかもしれない。
- 民間で温浴施設をやってもいいといわれたら建設まで含むと難しいが、運営はやれると思う。
- ビジネスホテルとの競合は一部施設ではあるかもしれないが、全体的にはあまりしないと思う。需要という意味では最近需要が出ている。個人客、外国人観光客など増えている。
- 健康スポーツセンターのようなものも、民間で運営できるような規模の温浴施設で、新幹線客だけではなく車での利用客も見込めるような施設であればなりたつだろう。
- 嬉野温泉駅というのは鹿児島ルートでも駅名は開業前に JR で決定しており、現在は仮称。新幹線駅で温泉駅と駅名についているのは、北陸新幹線の黒部運月温泉駅、山形新幹線のかみのやま温泉駅くらいだが、どちらも温泉からは離れており、温泉駅と名がつくところで、本当に近くに温泉があるのは武雄と嬉野しかない。武雄温泉駅も温泉というイメージではない。嬉野温泉駅とつける以上は、温泉の PR もしたい。温泉の良さを知っている方は来られるが、ご存じでない方にも知っていただく仕掛けをしたい。長崎新幹線という名前から、長崎への輸送という意味合いが圧倒的。車窓から温泉をイメージするものを作り、今回は通過しても、ここに温泉があるなあ、今度来た時は寄ってみ

よう、と思わせるようなものとしたい。温泉駅という特徴を出すべき。駅舎の中にお店というのは家賃も高いため、民間が入るのは難しい。公設民営で、補助を出すか、家賃を抑えるかして経営ができるような形にしてほしい。温泉を特徴にした駅づくりをしていくべき。バスで別府などに行くと、あちらこちらから湯煙が上がっており、温泉地に来た、と感じさせる。温泉やお茶など活かさないともったいない。

- 温泉駅のネーミングを打ち出してまちづくりのコンセプトにつけ加えていただきたい。
- 資料の中の面積表を見ると、コンベンションのみ2～3階建て、それを除いては平屋での想定。ただし、コンベンションは規模によっては、駐車場を立駐にする必要があるかもしれない。
- 医療センターの中のホールの規模は2～300と聞いている。
- 塩田のリバティは430人のホールだが、ほとんど埋まったのを見たことがない。作るとしても200人規模くらい、もっと小さくてもいい。仮に大きなホールを作り、人員を受け入れたとしても、一般観光客もいる中で、宿泊のキャパが足りないのではないかな。無理して作る必要はないのでは。
- 病院に関して言えば、医学会などがあるが、規模はまちまち。5000人規模のものから、県の救急医学会のように数百人規模のものまである。何をターゲットにするかによるが、医学会については1泊2日で開催されることが多く、宿泊施設がないと開催も難しい。
- 以前、嬉野はビジネスホテルが少なく、会議などを開催しにくいと聞いたことがある。温泉は料金が高いため、安く泊まれるビジネスホテルが欲しいという意見もある。会議と宿泊施設というのはセットだろう。
- 合宿などについては補助金を出せるものもあるが、学会でそこまでの費用は出ない。
- コンベンションについては公共的に整備するとしたら④という認識でよいか。②、③の位置づけはどうなっているのか。
- 事業主体が民間か、公設民営なのかなどは、判断つきかねる。④のコンベンションをつくとすれば公共だが、②、③についてはできればPFIなどで、という気持ちがある。建設も民間で実施してもらおうと助かる。
- 事業者をどう募るのかについては、たとえば⑦の駐車場の所は市の方で整備して②や③とかは民間に土地を買ってもらおうとし、どうしても入って来ないという事であれば、PFIなりのスキームを考えていくなどの必要があるだろう。土地利用の線形をどうするのかということについては、スケジュール的に今年度中にある程度は決めておかないといけない。ロータリー部分については以前だされていたスケジュールでは、8、9月くらいには決める。
- 事業者によっても変わってくるのではないかな。温浴施設と物販、飲食は同じ施設もしくは同じ事業者がやる、ということになるだろう。そうなると例えば、一体的な敷地として事業用借地のようなことをして、上物を作って貸し出すといったスキームが考えら

れる。その場合②、③のように土地が離れているのではなく、一体になっている方が民間事業者にとっては喜ばれるのではないか。駐車場も含めたところで一体的に提案を受けるという手もあるだろう。

- ロータリーは動かさずに、2、3パターンの提案はあるといい。
- 市場調査を実施する予定である。真っ白な状態で調査して、全く異なる提案が出るのも困るので、ここで必要機能などの整理をしてから進めたいと思っている。可能性を決めると先に進みづらいため、最低限必要な機能はこれ、付加機能はこれ、と段階を踏んで整理してもらえると進めやすいかと思う。
- 佐賀大学の学生さんに協力をいただき、3グループで模型等を使ってわかりやすく提案を考えてくれている。委員にはご案内を後日お送りする予定。
- 今日の委員会では、まずコンセプトについて、温泉駅としてのイメージをつくるべきという指摘があった。その流れを書いてもらい、それについてはこうなる、ということをお示ししてもらいたい。駅前広場周辺の計画については、学生たちが立体的にも作っているのでも見ていただいて、こういうことも考えられるという話もあれば一緒に合わせて議論していただき、駅前広場の土地利用について検討していきたい。また、民間がやる気になるような土地利用の設定というのも考える必要があるだろうから、流動性を持たせた検討としていきたい。